

## 常陸大宮市教育委員会 10月定例会議事録

- 1 会議の名称 常陸大宮市教育委員会 10月定例会
- 2 開催日 令和6年10月25日（金）午前10時00分から  
午前11時25分まで
- 3 開催場所 常陸大宮市役所 行政委員会室
- 4 出席者
  - (1) 教育長 小野 司寿男
  - 教育長職務代理者 宮田 則子
  - 委員 橋本 勇夫
  - 委員 宮本 亜希子
  - 委員 菊池 久義
  - (2) 事務局及び説明者
  - 教育部長 木村 隆弘
  - 学校教育課長 小泉 博美
  - 生涯学習課長 小室 修
  - 文化スポーツ課長 掛札 拓也
  - 指導室長 関 好美
  - 学校教育課課長補佐 青山 正樹
  - 学校教育課主幹 梶山 明日香
- 5 報告
  - 報告第22号 教育長報告について
  - 報告第23号 指定学校の変更許可について
- 6 議案
  - 議案第38号 専決処分の承認を求めることについて（常陸大宮市文書館運営審議会委員の解嘱について）
- 7 その他
  - (1) 各課及び教育委員の行事予定について
  - (2) 教育委員会所管事務契約案件報告について
  - (3) その他
- 8 次回の定例会日程について
- 9 閉会

10 傍聴人の人数 1人

11 会議の概要

小野教育長 本日の出席委員は全員です。

ただいまより、常陸大宮市教育委員会10月定例会を開会いたします。

(午前10時00分開会)

小野教育長 本日の議事録署名人の指名を行います。

議事録署名人に菊池久義委員を指名いたします。

本日の会議日程はお配りした会議資料のとおりです。

それでは議事に入ります。

ここで、市教育委員会会議規則第25条第2項の規定に基づき、慣例となっていますので、教育長職務代理者の変更を行いたいと思います。

教育長職務代理者に宮田則子委員を指名いたします。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

はじめに、「日程2 報告」を議題といたします。

報告第22号 教育長報告となりますので、私の方から報告いたします。

10月15日に後期が学校で開始されました。最初に、学期始まりだったんですけれども、特に大きな問題もなく、元気に子どもたちはスタートを切ったようです。校長先生からの報告でも特に問題になるものはありませんでした。

少し戻りますが、9月26日に山方小学校、9月30日に大宮北小学校、そして10月1日に山方南小学校、いわゆる小規模校で、学校関係者意見交換会を放課後に行いました。この意見交換会は、これまで小規模校でいろいろなことがあったんですけれども、特に学校統合とかを話題にするわけではなくて、今現在、小規模となっていていろいろな課題とか問題がある場合に、それをどのように対応したらいいかということを中心として、地域の区長さん、それから学校、そしてPTAの役員さんたちとともに協議をしたものでございます。

それから、28日に西塩子の回り舞台のシンポジウムがありまして、これはトモニトウというNPO法人が主催したものですけれども、澤島校長先生が参加いたしまして、小学校で行っている子供歌舞伎の件についてお話をしていただきました。

10月8日はオーガニックの給食フォーラム実行委員会がありまして、11月にオーガニック給食の全国大会が行われますので、その準備会を行ったということでございます。先ほどお話ししましたように、15日に後期が開始しまして、その時に合併20周年記念の給食を実施いたしました。瑞穂農場から牛肉の寄附がございまして、その牛肉を使った小中学校のメニューということで、私たちも試食させていただいたんですが、非常に美味しい給食でした。あとは、ひたまるのマークがついた卵焼きですとか、合併20周年をお祝いするという意味での給食を提供いたしました。

21日に学校長会がございまして、それと同時に公民館の運営協議会を行っております。

23日は、一昨日になりますが、大変お世話になりました。後期学校訪問ということで、第二中学校、大宮北小学校、大賀小学校、山方中学校を訪問していただきました。来月末にまた第2回目がございますので、どうぞよろしく願いいたします。

前回お話をしました新人戦の結果につきましては、お手元にお配りした通りでございます。総体で活躍した学校が多かったものですから、ちょっと寂しいなっているところもあるのですが、人数その他諸々と問題も出てくることで、これからこの中体連の大会がどんな風になっていくかということは、我々もしっかりと考えていかなければならないかなと思います。

報告は以上です。ただいまの件について、質問があればお願いします。

〈傍聴人が1人入場する〉

本日の会議に1人の傍聴希望者がおりますので、報告いたします。

傍聴人の方は、注意事項を守って傍聴をお願いいたします。

質問が無いようですので、次に移ります。

ここで皆様にお諮りいたします。

この後の「報告第23号」につきましては、個人情報に関する内容が含まれております。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第14条第7項の同項のただし書きの規定により、人事に関する事件その他の事件について教育長または委員の発議により、出席委員の3分の2以上の多数で議決したときは、会議を公開しないことになっています。

つきましては、個人情報保護の観点から、会議を非公開にしたいと思っておりますが、賛成の委員の挙手を求めます。

(委員全員 挙手)

全員一致ですので、報告第23号につきましては、非公開といたします。

傍聴人の方は、退席いただきますようお願いいたします。

それでは、会議日程に戻ります。

報告第23号 指定学校の変更許可について 事務局の説明をお願いいたします。

小泉学校教育課長           【報告第23号について説明】

小野教育長   説明が終わりました。質問があればお願いします。

質問がなければよろしいでしょうか。無いようですので、報告は以上になります。

ここで傍聴人に入室していただきます。

傍聴人の皆様、ご協力ありがとうございました。

続きまして、「日程3 議案」に入ります。

議案第38号 専決処分の承認を求めることについて（常陸大宮市文書館運営委員会委員の解嘱について） を議題とします。事務局の説明をお願いします。

掛札文化スポーツ課長 【議案第38号について提案・説明】

小野教育長 説明が終わりました。質問があればお願いします。

無いようですので、採決に移ります。

議案第38号につきましては、原案のとおり承認することよろしいでしょうか。

各委員 〈異議なし〉

小野教育長 異議なしと認め、議案第38号につきましては、原案のとおり承認いたします。

以上で、議案が終了しました。

続きまして、「日程4 その他」に移ります。

(1) 各課及び教育委員の行事予定について、事務局の説明をお願いします。

小泉学校教育課長 外 【行事予定説明】

小泉学校教育課長 【教育委員の予定説明】

小野教育長 ただいまの件について、質問があればお願いします。

無いようですので、(2) 教育委員会所管事務契約案件報告について、事務局の説明をお願いします。

小泉学校教育課長 【契約案件説明】

小野教育長 ただ今の件について質問があればお願いいたします。

無いようですので、(3) その他について 事務局又は委員の皆さまから何かありましたらお願いします。

宮本委員 夏休み入ってすぐに緒川地域センターで、先生方の研修ということで、予習は大事だよってやったと思うんですが、先月のこの時に言えばよかったです

けれど、夏休み明けてから子供が帰ってきて、予習が大事だって先生が言った、だからこれから予習をやろうと思うっていうことを聞いて、先生がちゃんと子供たちに話をして、子供もまだ続いているようなので、研修が先生方にも浸透して、さらに子供にも浸透しているっていうのは身をもって感じたので、こういう有意義な研修がまたあればいいなと感じました。

小野教育長 室長、何かありますか。

関指導室長 ありがとうございます。

小野教育長 その他ございますか。

掛札文化スポーツ課長 部活動の地域移行に伴う取り組み状況につきまして、アンケート結果の報告をさせていただきます。

#### 【資料により説明】

小野教育長 色々と質問もしくはご意見等あるかと思うんですが、いかがでしょうか。

宮田委員 アンケートをこれだけまとめあげるの大変だと思うのですが、非常にいろんな項目をこういう形で表せたっていうことがまず第1段階だと思うんです。当地域においては少人数になってしまう学校もあるので、さっき地域外の通学の問題も出ましたけれど、学校を選ぶのにも部活動は心の中で大きなウェートを占めているんじゃないかなと思うんですよね。そういう中で、市内でも大きな差がありますよね。地域って言いますと、保護者のアンケートの中にもありますけれども、地域クラブに通う交通手段とか、ますます親の負担が多くなるんじゃないか。また、保護者の負担も金銭的な面もかなり多くなるんじゃないか。1日24時間の決められている中で、非常にいろんな問題が細かくこれから先に出てくると思うんですね。地域移行って叫ばれていますけれど、具体的には現状をいつまで認めていただけるのかどうか、そういうことは本当にひしひしと感じているところだと思うんですよね。そういう中でのこういうアンケートですから、受け止めたけれどどうしていいか分からないっていう現状があるので、これから何回かま

た検討を重ねていくと言いましても、じゃあ、いつどこで誰がやるのか、検討するのか、そういう具体的なことも出てくると思うんですよね。大切なことでタイミングもあることだけれど、難しいなっていうのが全体的な感想です。

小野教育長     ありがとうございます。

たくさんあると思うんですけども、まずはお話をさせていただくことが大事です。

宮本委員     すごく単純な質問なんですけれど。このアンケートを取る中で、既存の部活動に関してアンケートを取るのはそうだと思うんですけど、なぜバドミントンを入れたのかっていうのを知りたいです。

掛札文化スポーツ課長     中体連の種目、競技が12種目あるんです。その中にバドミントンが書いてございまして、ニーズとして把握するのに入れさせていただいたところです。

宮本委員     分かりました。ありがとうございます。

小野教育長     橋本委員お願いします。

橋本委員     この中で、学校と地域活動との差を不安に思っているって。指導者が増えれば増えるほど統一性は薄くなりますから、保護者は不安を感じるっていうことがあると思うんです。市として部活動を下ろしてきた時に、学校教育の中の、学校教育外って言われていましたけれど、その部活動っていう今の形を残しつつ地域に移行しようとしているのか、学校の中に部活動っていうものは全くゼロにしてしまって、地域だけにしようとしているのか、最終的な落としどころはどこなんだろうって私は思っているんです。それを曖昧にして、地域もやる、学校もやるって言っていたら、生徒も保護者も指導者も全部がいい加減で、不安なまま残るって思っているんです。ですから、市として部活動を下ろした時に、どういう形にまとめようとしているのか。行き先がはっきりしないで論じてもってというのが一番大きなところじゃないかと思っているんですが、その辺はどうなんですか。そ

れによって話が大きく違ってくると思うんです。

掛札文化スポーツ課長 県の大きな流れとして、土日の部活動、休日部活動等については、令和8年度から先生の手を放しなさいという方針が示されています。令和5、6、7年度というのが休日部活動の推進期間と国や県から示されていて、そこについては補助金も出しますよってという制度で進めています。当市に関しては、少なくとも県で示されている令和8年度の休日部活動は、土日の部活動については地域に放す、地域へ持っていくってという指示の中で、その形で動きたい。当然その形で動いています。今の部活動がどういうものかっていう話になりますと、令和8年度以降の部分については、学校では平日の部活動をそれぞれ行いますというのがあって、休日、主に土日になると思うんですが、それについては地域のクラブ指導者等が担ってやってくださいと。ただ、地域の方が担うにしても、学校の先生方が届け出をすれば、学校長が許可すればって話になると思うんですが、最終的には教育委員会って形になるかと思うんですけれど、そういう方も地域の指導者に加わっていいよってというシステムなんですね。それを将来的にどうなのかっていう話になりますと、朝日新聞のスポーツ欄だったと思いますが、将来的には平日も全部地域に下ろすというような方針で国は考えているようです。あと当市の考え方になりますけれど、地域クラブと言っても、どちらかという和学校で部活動をやっている状況の中で、先ほど最初に県大会の話が出ましたけれど、今目指しているものは、合同クラブとかっていう形ではなくて、あくまで基本としましては、学校でやっている部活動の受け皿として、土日野球やる人、野球部が集まって、地域の指導者や学校の先生たちの協力がいただければ、その中で練習をして、平日はまた学校にお返しするというような形での、あくまでそれぞれのクラブの受け皿という考えで、単独チームで常陸大宮市の野球クラブとかっていう形で出場ってというのは今のところ想定はしていません。

橋本委員 今のような形がこの地域としてはなんだろうなって、漠然と思っていま

す。その中で、先ほどのバドミントンの話ですけれども、小瀬高校で一時バドミントン部があって、上位に上がったり県や関東大会まで行ったりしていた経験があるんですよね。この地域にバドミントン部っていうものが全くない中で、このアンケートの中にそういった種目を入れて、人数が多かったから、希望者が多そうだからって言って、じゃあどうするって考えたって、何の足しにもならないと思うんです。ですから、そもそもアンケートの内容にバドミントンとかそういうのを入れたっていう時点で、このアンケートの信用性が全く私には分からないんです。入れる必要はないと思うんです。希望としてなんかありますかっていうその他の欄にバドミントンっていうのがたくさん出てくるんだったら、これは希望しているんだろうなって受けますが、一般的にバドミントンの競技性から言うと、バドミントンってレクリエーションの部分が一般的にすごく高いんですよ。ですから、部活動と同じレベルで考える種目かって。これを見ても、何の解決にもならないような数字だけだなとしか思えないです。

掛札文化スポーツ課長　ありがとうございます。国が示すのは、生涯学習的な感覚でいろんなニーズに応えなさいっていうことも出ているんです。あとは、バドミントンを入れたっていうのは、競技の中であるっていうこともございますし、市のスポーツ協会の連盟の登録の中にバドミントンってあるんです。そういう方の指導っていうのを、ちょっと淡い期待をいただきながらってのもあるんですけど。こちらの生涯学習的な考えで言えば、無理はありますが、そういう中で、どういう希望があるのかっていうところでチェックを振っていただいて、そのニーズを把握したいっていうところでの単純的な思いの中で、項目を設けさせていただいたのが今のところとなります。

小野教育長　示せるものがまだ不確定なので、そういう体制で、ここでこんな風にするんだって言えば、もっと増えるかと思うんですよ。今の国の段階ではずっと何年か、この5、6年続いてきてますけれども、最初から全然目的が変わってく

るわけです。最初は学校の先生方の負担軽減を大前提にしていたのに、途中から、子どもたちができるだけ多くの種目を人生上体験できるようなシステムを構築したいなんて話になって、さらに今度は学校から部活動をなくすということになってきているんですけど、じゃあその枠とか場所をどうするのって。自治体がやるんだ、金は少しは出すっていうけど。でも、これだけの面積と散らばっている子供たちが、学校終わって、それは学校でやるんですけど、いずれ8年、10年に、自分がスポーツしたいから、じゃあそこでってできるはずがない、物理的に。そういう地域は全く無視で、誰が研究してるかっていうと、部活動なんてやったこともない人たちとやりたくない人たちが話を進めている。基本として学校教育の中にあつたものだっていうことを忘れ去ったならば、もう学校から絶対切り離さなきゃならないものじゃないですか。そんなこと、できるわけないですよ、こういう環境では。だから、どうするんだっていう話だと思います。私が話しちゃってもあれですけど、このデータすごく面白いですよ。いろんな意味で数がはっきり分かるっていうか。意見として本当に。こういう割合の人たちがこういるんだなど。でも、さっきちょっと言いましたけど、学校教育としての部活動を扱う時には、実はこの少ない方の何人しかいない中に大事なことが入っているってことが学校教育なんです。やりたい人は大事にされるけれど、やりたくない人の中に大事なことが入っていたりするんです。極論ですけど、簡単に、部活動1つを取って、やるかやらないか、どこでやるか、代わりにやるかって、そんなことで成り立つ、ただそれだけできるだけのものではなくて。学校の部活動ってスポーツを訓練するんじゃないんですよ。人を育てるもの、道具なんです。そこを考えると、形は整うかもしれないけれども、非常に、なんて言うんでしょうか、心配な状況が生まれてくる。私なんかスポーツは全くダメな方の人間なんです。部活動がなくなったら家に帰ってプラモデル作るぞと思う子供はいると思うんです。だけどその分、嫌々ながらもとにかくやっていた。それで何か身についてい

たものもあって、そしてそれがストレスだとかをはねのけるための力になったり、要するに負荷がかかっているわけですね。でも、成長の時期にいろんな負荷がかからないで育った人間ってどうなるかなんて未だにわからないと思うんです。そこは大事に考えなくちゃいけないだろう。でも、制度が出来上がってきちゃうので、そこになんとか。特に学校の先生方は守らなくちゃならないってことになるわけですから。本当は今までの部活動のやり方で、先生方が部活動の大事さっていうものを体感できるようなスタイルがうまくできてなかった学校の責任もあるんですよね。そういうこともあると思うんです。あとは、やっぱりいろんな意見が出てくるんですけども、さっき、チームワークとか社会性を学ぶっていうものが目的の1つだって保護者から意見があってありがたいと思うんですけども、でも、実際に部活動やるとそんな意見はどこかに消えていって、うちの息子をなんで出さないんだ。あんなサインであの点が取れるわけない。それから練習が足りない。あと、どこどこ中学校はあそこで練習試合やっているのになんで行かないんだって、そういうのがリアルにガンガン来るわけですね。これを学校教育としてちゃんと保証してあげなかったから、先生方はもうこんなのやっられないよということで疲弊しただけだって話で。要するに、今まで知らんぷりして、そういったシステムとかを学校任せにしてたくせに、いざやるとなると、こういう風に正しいことをちゃんとやるぞなんて言いながら、政府の方針というのは実は大事なことを1つも考えてないっていう、そういう方向に行っちゃうなっていう気はします。本当は私がこういうこと言っちゃいけないんでしょうけれども、それは事実なので、そこらへんを大事にしていかななくちゃならないかなと思うんですが、でもいずれ何年か後にはそうしなくちゃいけない。もう本当に遠くから長い時間かけてやっと学校に来ている状況なのに、その後放課後どうやって行けばいいんだって。学校でやるからいいんじゃないのって思うんですけどね。最初、だから学校の先生方には、市の方針として校長会にお伝えしたのは、学校

でやらなかったら部活動じゃないだろうって。我々は何言われても教育活動として扱いましょうよっていう流れだったんですが、でもやっぱりやりたくない人が多かったっていうことですね。

橋本委員　　どこかの学校で部員1名で練習していたってということなんですけれど、種目を優先させるとそういうことになってしまうんですよ。ちょっと戻りますけれども、土日だけに受け皿をっていうのであれば、最終的に先生方に土日も指導していただけますかっていうことで、土日も学校を離れて外部指導としてやってもいいですよっていう人がどれだけいるか。それで、どうしても引き継ぎができないところに関しては、外部のお手伝いも願うみたいなことで、一時は進めていくのが理想的だ。

それと、部員が少なくなってきた場合は、隣との合併みたいになってくるのかなってというのが1つあるんですよ。他と合併していくのに、保護者の負担は、移動の問題が出てくるものです。次に出てくるのは、その移動の時間的な負担、それから、外部の指導者とか先生方を土日をお願いするための費用をどうするんだとか、その辺が生み出されてくれば、ここの地域に合った形が少しずつできてくるのかなって。なんとなくそういうイメージなんだろうなと思っているんですけど、アンケートを見させてもらうと、広くなってしまって、なんか分かんなくなっただけなんですけれど、落としどころは多分そんなところだと思うんです。

小野教育長　　基本的には、例えば市町村の自治体が受け皿として、子どもたちがスポーツを指導してもらえる場所を設定し、指導者を設定するってことなんでしょうけれど、でも実際には今の状況でも、水戸市や那珂市、ひたちなか市の強いチームに行っている子供たちはたくさんいますよね。野球、バスケットボールも。それは自分たちが選ぶ。結局そうすると、部活動で収まっていたものに、子供たちがやりたいと思うことにまで格差を与えるっていうか、そういう社会っていうことになるんですよ。義務教育なのに行きたくても行けない子が出てくる。確

かにどの学校でも十分な種目はできないけれども、それでも体を動かして、なんとか中学校3年間の間に鍛えるだけの、そしてさっき言った精神的なものとか、先輩後輩の関係とか礼儀とか、そういったものを教える時間はなんとか確保してきたけれども、そういったものを学校から全部なくすことになっていけば、当然子どもたちは差別社会の中に入る。街中の子供たちは全然いいですよ、好きなように、シーズンによって種目をアメリカのように選べると思う。だけど多分、他の子供たちの、特に遠い子は、やりたいことがあっても行けないですよ、そう簡単には。結局は強いところ同士がまたしのぎ合うことになるでしょうから、当然もう毎日大変な負荷をかけられる。月曜日に来て朝から授業で寝てるっていう状況は絶対出てくると思います。

橋本委員 部活動の大きなところは大会があるっていうことなんですよ。大会の形は総体と新人戦が学校教育の中で1番大きいんですけども、そのトーナメント方式の頂点を目指すための部活動に今までなっていたので、練習の厳しさとか量とか、そういうのがどんどん出てくるんですけど。アメリカでは、トーナメント方式でなくリーグ戦形式で、ゲームを通してながら育てていく形を取ってるんですよ。上に上がる必要がない。だから、メンバーもどんどん入れ替えて、たくさんの子が経験をできる。勝敗はあまり気にしないで、負けたのはなぜ負けたんだっていう反省を中心に、勝ったのはなぜ勝ったんだっていうところを重点的に部活動をやっています。そこから変えないと、受験制度と同じなんですよ。受験制度を変えるのと同じように、部活動もそういうところから変えないと。勝利主義を変えるところから始まらなきゃならないですよ。ここで話してもしょうがないことなんですよけれども、その辺があるんじゃないかなと思います。

小野教育長 菊池委員、いかがですか。

菊池委員 やっぱり地域によって、大きく違いがあるでしょうからね。私の教え子は教師で柏市にいるんですけど、柏市では学校教育は部活動全て手を引いたとの

こと。それで、何をやらせたいのかなんていうことで相談があったんですけど。地域によっていろいろですよ。人材が豊富なところと、常陸大宮市の広い地域の中で、指導者も少ない、先生もといったところで、難しい問題だなと。

小野教育長 宮本委員どうぞ。

宮本委員 アンケートの中にもあったんですけど、具体的に地域移行を進める市町村教育委員会からの結果報告が少ないというところなんですけど、令和8年度から土日の部活動が地域移行になりますよっていうのをちゃんと知っている保護者が果たしてどれぐらいいるかな。部活動が地域移行になるらしいっていうのは、なんとなく保護者には入っているの。ただ、実際、今6年生の子、5年生の子、4年生の子がいる保護者は、中学校に進学するってなった時に、子供と、どうする、部活動に入る、部活動入らない、それともクラブに行くっていう。ちょうど今、過渡期で選択をしなければいけない段階なので、どこかでどんどん情報を発信して行ってほしいなと思っています。

あとは、例えばクラブチームに入るっていう選択ができる家はいいんですけど、時間的余裕、金銭的余裕がない家庭は、それでもやっぱり子供にいろんな経験をさせたい、部活動もさせたいっていう思いもあると思うので、そういう家庭が活動しやすくなればいいなと思います。

このアンケートで面白いなと思ったのは、中学生にとってアンケートで、あなたが部活動で感じている問題点っていうところなんですけど、部活動の日数・時間が長いっていうのを選択した子たちが意外と多いんだっていう。多分、私が中学時代よりも、今の方が時間的にはずっと短いと思うんですね。月曜日、木曜日もやらない、日曜日もないっていう中で、それでも長いって思うんだっていうのが、すごくギャップを感じて驚いています。

掛札文化スポーツ課長 ご意見として頂戴します。

橋本委員 保護者の方に方針とかを発信するっていうんですけども、市の方針がはっ

きりとしたものがなくて、どうやって保護者に発信していくのかなって気がするんです。今時点で何か保護者に発信できること、そんなにあるんですか。

掛札文化スポーツ課長 その点については、これまでPTA総会っていう場の中で、今の部活動の形が変わりますよって形で発信と言いますか、常時ではないんですけど、そういうところで説明をして経過を。

橋本委員 今みたいに変わりますよっていうのは、単純に不安を投げかけただけで、どう変わるんだっていうことをはっきり示さないと。発信したことじゃなくて、不安をただ投げかけただけじゃないですか。どう変わるのか教えてくれ、発信してくれっていうことだと思うんです。それが無いのに、変わりますって言ったら、不安だけしか残らない。それは発信したことですか。むしろ黙っていた方がいいんじゃないですか。

宮本委員 うちの子は小学4年生なんですけれど、部活動が変わるっていうのはなんとなく感じてみたいで。いろんな方から、スポーツが好きなんだね、中学校に行ったらどうするのっていう話が出た時に、いや部活動じゃなくてシニアに行こうかなと思っていますっていう選択が子供の方から出ている。今まではその中学校に行ったらどの部活動に入るかっていう選択だったのが、今の小学生たちは、部活動に入るか入らないか、じゃあ部活動に入らないで外で部活動に入るのか、それすらやらないのかっていう、そこからの選択肢になるので、橋本委員は不安をあおるとおっしゃったんですが、もちろん、令和8年度からこういう風に変わりますっていうのが示されていけば1番いいのですが、そこがまだ決まっていない段階でも時間は過ぎていってしまうので、せめて令和8年度から土日の部活動は地域移行に変わりますっていうことは、まず浸透させた方がいいんじゃないかなと思っています。

橋本委員 そういうのは浸透させているんですか。

掛札文化スポーツ課長 そこまで浸透してないと思います。

橋本委員　　していないでしょ、まだ。それも発信していないですよ。私、ずっと中学校では部活動主任とかをやってきて、この地域、那珂郡あたりでも、大きなところは違いましたけれども、ほぼ部活動は反強制的に全員参加みたいな形で今までやってきたんです。でも、ここへ来て、ここ数年間はシニアとか、そういう部活動を選択しなくてもいいですよみたいな雰囲気、それもどの程度なのか私は分からないんですけれども、流れとしてできている気がするんです。だから、帰宅部みたいなのもオッケーみたいな。あまりにも大きい学校は、全員入ったら部活動にならないってところもあるので、部活動は希望でいいですよってところ。この辺ですと、入らなかつたら成立しないんですよ。ですから、たとえ嫌でもやらなきゃならないような子供たちもいたわけです。その辺りで、平日は学校のクラブと同じような部活動だからやっているけれども、土日までは俺はやらなくてもいいよって、本当にそれでいいの。その辺の方向性をはっきりと出して、これもいいのねってなれば、不安が少しでも解消されてくると思うんです。だから、今のところ、このアンケートを見ても先が見えないような状態で動いているような気がしてしょうがないんですけれど。

小野教育長　　せっかくアンケートも取ったことだし。校長会と毎月協議をしてるわけですから。そういったところを使えばそんなに難しいことではないですね。現時点で細かいことを説明できないから、0が100かというのと100無いから説明できないんじゃないかと、今20でも30でも、こういう方向でいきますからねってということで話しておけばいいかなと思います。

宮本委員　　その後、中学校の入学説明会もあるので、そこでも言っていたければなと。

宮田委員　　このアンケートは、日本全体、あとは中体連っていう組織のことも考えた種目っていうのもある。クラブ地域移行っていう言葉が、世の中にもいっぱい聞ける時期になってきました。土日の部活動は令和8年度から地域っていうことに

なります。そうすると、国の方針、それから県の方針、そして地域の現実を考えて、この地域の部活動の方向性を見出していかなくちゃならない、こういう会議だと思っただけです。だから、あくまでもこのアンケートも土台にして、校長会では、こういうことをやってみようかとか、8年っていう期限もあることですから、段階的にこの項目についてとか絞って。部活動の中には、スポーツ面が多くイメージ的に浮かびますけれど、文化面の部活動もあるでしょうし、今やるべきことはこのことなんじゃないかなっていう風に段階を考えて、これからもこの会議の話題としていけたらなと思いました。

小野教育長 ありがとうございます。まとめていただいたので、よろしいでしょうか。

続きまして、「日程5 次回の定例会日程について」事務局からお願いします。

小泉学校教育課長 (11月定例会について日程調整)

小野教育長 それでは、次回定例会は、令和6年11月25日 月曜日、午前10時より開催することにいたします。

菊池委員 すみません。

小野教育長 はい、どうぞ。

菊池委員 この間、市の合併20周年に参加させてもらって、最後に常陸大宮市民の歌「君とこのふるさとで」を歌ったんですけども、私の隣にいた方は初めてだったと。これ10周年の時にできたんですよっていう話をして、お昼の時も少し、ワンコーラス、ちょっとだけ流れているんですよなんて話をして、とても良い歌だねなんていう意見も出てたんです。ですので、例えば青少年の集いとか、そうした時でもまたみんなで歌えるような場があるといいのかなって感じたので。市全体で聞かって本当に久しぶりだったんですね。1番だけだったんですけど、1番で終わっちゃったのかって。もう少し2番もなんて言っていたので、せっかく10周年でお金かけて作って、歌の内容も今の若い人たちが歌えるような内容な

ので、せっかく常陸大宮市で育ったっていう共通の部分、歌によってというのがあるので、普及を少しずつ、もっとできればいいのかなと感じました。

宮田委員　市の歌「君とこのふるさとで」っていうのは10周年でできまして、できた数年、3年か5年になるか、それは私も記憶が定かじゃないですけど、非常に流していましたよね、各家庭に。だから、緒川地区の緒川音頭を踊るグループでは、その振り付けをやってみたんですよ。そして、緒川地域の文化祭で披露したこともあるんですね。ですから、緒川地域なんかでは、年配の方はほとんど歌えるというか、メロディーが口ずさめるといいます。しばらく、数年間は遠ざかってたような気がします。久しぶりに聞いたなっていう感じがしましたが、できた当時は確かに市民に広く普及できるような方法は取られてました。

小野教育長　20周年にもなったことですから、もし使えるような集会ですとかある時には。

宮本委員　その続きで、私、あゆの里祭りや芋煮会のお手伝いをしているんですけど、確かに10周年の頃は、イベントなのでいろんな音楽をかけてる時があるんですけど、それをわりかし常陸大宮市の歌をずっと流してたんですけど、ここ数年はそれがなくなっちゃって、ただ音楽をかけている感じっていうのがあったので、そういうイベントの時もBGMでうっすらかけておくだけでも入っていくと感じました。

橋本委員　すいません、いいですか。いろんな場を整理していただいて、今みたいに地域の時にもって言いますが、地域は地域であるんです。例えばうちの方だと、美和音頭がちょっと薄れてきたので、地元でせっかくだから、ふるさと祭りでそれを前面に出していこうよっていう動きがあって、来年度の最後の祭りは美和音頭だけでやろうよって、他の盆踊り系の音楽はかけないようにしようよっていう動きが今あるんです。そんな中で、市の歌も流そうよと言われた時には、またごちゃごちゃになってしまうので、その辺は整理しながらやってもらわないと。

上から来たからこれも流さなきゃならないよみたいな形はやめてほしいと思いますね。地域には地域のものがあるんです。それは大事にしてもらいながら、市全体でいろんな場でっていうのを全部一緒にしない方が。さっきの部活動と同じですよ。

菊池委員　私が美和中学校と山方中学校にいた時は、給食の開始の音楽、4時間目が終わって給食ですよって時には、市の歌をまずかけていたんです。だから、美和中学校と山方中学校の生徒たちは、ちょっと聞けば口ずさめるのかなっていうところ。何かそういう下地があれば、こうした市の大会とかの時でも、流せばみんな心一つにっていう風に、少しでも近づけていくのかなって感じはしました。

小野教育長　私のところは久慈川の向こうが常陸太田市なんですけれど、あっちの放送が聞こえてきて、これ常陸大宮市の歌じゃないなって思ったことが何度もあります。

橋本委員　防災無線のあり方もそうですよね。いろんな要望を出しましたけれど、防災無線だからっていうことで、ニュース類は地域によってはぜひとも流さないでくれっていうところも出ているんですよね。だから、ボリュームを下げておくななんて話も、民生委員とかの会議では聞くんです。その割には案内を随分流しているなって思っているんで、あの辺は補助金の関係で防災無線っていう名前ではできないんでしょうけれど、広報活動もどこかではですよ、ここではなかなか話せないですけども。

小野教育長　ありがとうございました。

以上をもちまして、常陸大宮市教育委員会　10月定例会を閉会いたします。

(閉会：午前11時25分)